



広報 ざいだん

2023年 (R5) 3月 No.20

公益財団法人 茄子川地域振興財団

岐阜県中津川市茄子川1317-4 TEL0573-68-5655
URL <https://www.nasubigawazaidan.com>
E-mail: nasuzaidan@spice.ocn.ne.jp

源根の森 特集号(故郷の里山を知ろう)

保古山（標高：970m）北斜面（通称：源根の森）は多くが茄子川地域振興財団所有地であり、茄子川地区の水源となっています。

大きな自然災害が少ない地域にあって、最も土砂災害の危険性をはらんでいるところです。

明治37年には大雨に伴う土砂崩れにより、土石流が現在のJR美乃坂本駅付近まで押し寄せ、大きな被害をもたらしました。

農業に必要な水をもたらす恩恵と土砂災害をもたらす危険の両面をもつ場所であり、人間の管理を必要としています。

茄子川地域振興財団は発足以来、県の治山事業、市の源根林道管理・景観機能の拡充、森林組合の森林育成・利用事業等を実施していただきながら、ここの管理に力を入れてまいりました。

地域の皆様には、この里山とそれを有益な場所とする活動を知っていただきたいと思います。

源根の森の全貌



源根の大堤 (源根ため池)



01 源根ため池の概要

源根ため池	標高 783.55m
堤体巾(天端)	4.6m
堤 長 L	= 150.0m
堤 高 H	= 12.5m
堤 体 積 V	= 80,000m ³
貯 水 量 Q	= 86,000m ³ (水面深さ 約10.2m)



02 源根ため池の歴史

源根ため池は茄子川地域にとっては、大切な農業用ため池です。

茄子川地域は、古の時代から大変な水不足に悩まされてきました。

江戸時代茄子川の住人、源右衛門はこの水不足を解消するため、ため池を造ることを発願しました。

源根ため池のいわれは、源右衛門が水不足で難儀して苦しむ農民対策として、ため池の建設を思い立ったことからと伝えられており、区民に親しみ深い大切なため池です。

源根ため池は、保古山の中腹部分に建設されることから、過去の災害から、山が脆弱な地質のため、その崩壊不安から「築堤は可とする。ただし、完全を期すこと」の条件が付けられました。

ため池建設事業は、地元民の雇用拡大を含め窮民救済事業として茄子川区、村が積極的に取り組みました。

多くの地元民の尽力により昭和13年に完成しました。

昭和62年には、建設から50年を経過し、老朽化が進んだため大規模改修が行われました。



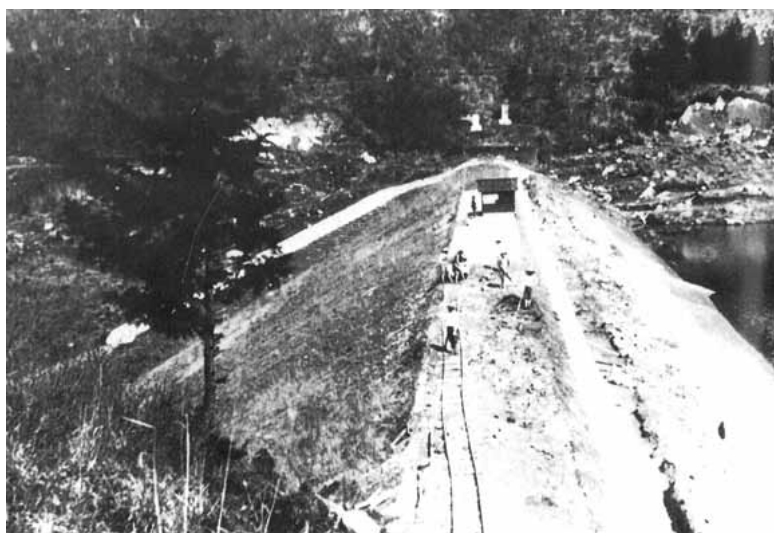
改修之碑



坂本婦人会のはがね打ち奉仕



源根溜池工事責任者達



完成間近い工事風景

源根の森 里山の遺産

01 百年林と坂本川源流

源根溜池から保古山に向い約2km程源根林道を登ったところに、約8.6haの桧木林があります。昭和57年に保存林として維持管理するため、そして里山の大切さを将来にわたって伝えるべく百年林が設けられました。

この百年林のすぐ近くに、坂本川の源流が湧き出ている。その横には古くから茄子川住民に美味しい水として年中涸れることなく、10℃の清水が湧き出しています。

昔は「水呑み井戸」呼ばれていた。今でもこの井戸水でご飯を炊くとおいしいと言われ、汲みに見える人もあります。

(注：飲料水適合検査してませんので、煮沸してお使いください。)



02 岩組の砂防えん堤

中核工業団地の西、ユージュリー中津川GCの西のところに、岩組砂防えん堤がある。

詳細は定かでないが、明治時代オランダの水利技術者、ヨハネス・デ・レーケの技術指導で設置されたと言われている。

デ・レーケは木曾川水系の改修計画を担当したと記されている。

このえん堤は、いつ着工、完成したのか定かではありませんが、このえん堤は巨石で強固に組み立てられており、今日まで立派にその役割を果たしております。



03 飛尻の石積えん堤

昭和27年から昭和28年にかけて施行された石積みのえん堤です。このえん堤の建設のため用いられた石は、源根里山から採掘され、これを割って積み上げたものです。当時の石積技術の高さを示しています。

えん堤の中ほどに水抜きと思われるが、ここから小滝のように清水が霧状に流れ落ち、気象条件によっては虹が生まれる時もあります。源根林道沿いの飛尻にあります。

04 源根石

源根里山にあるゴツゴツとした硬い石のことを、この地では、源根溜池に由来してか、源根石と呼んで庭石に用います。

砂や石ころがたまってできた地層に、鉄分をとかしこんだ地下水が浸みこんだ結果、そこから晶出した褐鉄鉱（錆と同じもの）で砂礫が固められてできた石です。



洗井沢

05 馬頭観音

林業土木用機械車両がなかった頃は、力があって急斜面もいとわないう馬が主な動力源でした。森林材木を搬出するために危険な場所で働く馬は作業中の事故や病気で命を落とすことも珍しくありませんでした。一緒に働いた人たちは、そんな馬達に慰霊と感謝を込めて山中に観音様を祀りました。それが「馬頭観音」です。源根の森には2か所残っています。



滝ヶ洞

源根の森を活用した協賛事業

01 坂本小学校校外学習

坂本小学校では4年生の校外学習として、源根の森を散策し故郷の里山について学習を行います。

源根ため池・百年林・坂本川源流・展望台を巡り、ため池の造成と用途・治山等について専門家の話を聞きます。

子ども達も実際に現地に足を運んで見聞きすることにより、思い出に残る体験として楽しみな学習となっています。

財団では有意義な公益事業としてこの活動を全面的に支援しています。



「なすび川財団の皆さんへ」として送られて来た 校外学習会の感想文の主なものを紹介します。

源根のことについてたくさん
おしえていただきありがとう
ございました。
わたしは源根ため池にこんな
にれきしがあったことをしら
なかつたので楽しかったです。
それに仮設トイレなど、せっち
してくれてありがとうございます
でした。

ぼくは、飛尻えんていがすご
いとおもいました。
北東300mもはなれた沢から、
あんなにたくさんの石を手で
もってきつづられているから
です。話をしてくれたり道をせ
いびしてくれたりして、
ありがとうございました。

バス、ブルーシート、トイレ、
熊よけのせいびをしてくれて、
道案内をしてくれてありがとう
ございました。実物をさわ
る体験、昔の道具や、水にさわ
らせていただきとてもうれし
かったです。
カモシカもとってもかわい
かったです。

このまえは、いろんなことを
教えてくださりありがとうございました。
おかげでため池は
どんなふうに使われているか
や、百年碑や、わき水のことを
しれました。
そしてきょうなたいけんあり
ありがとうございました。



02 XTERRA JAPAN Nenouekogen(エクステラ ジャパン 根ノ上高原)

XTERRAは、オープンウォータースイミング、MTB、トレイルランニングの3種目を1人の競技者が連続して
行う競技で「オフロード版トライアスロン」です。

大自然と触れ合いながら競技をする点で、トライアスロンとは異なる魅力を持つ競技です。

国別、地域別のチャンピオンシップを中心に関連イベントを含め年間150大会が開催され、ワールドシリーズ
化されています。アジア・パシフィックでは日本、台湾、ニュージーランド、オーストラリアなどでも開催され、南
米、北米、ヨーロッパなど世界中を巡り、毎年9月に世界チャンピオン決定戦(2023年はイタリア)で締めくく
られます。

根ノ上高原大会は昨年度第一回大会が開催され、参加者に好評につき国内での正式競技会として毎年開催
の予定で、今年は5月にエクステラ、8月にはトレイルランが開催されます。

源根の森ではMTBとトレイルランが実施されます。

